

# 令和元年度茨城県内 子ども食堂実態調査 報告書



子ども食堂サポートセンターいばらき



## 調査概要

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内の子ども食堂の活動状況やニーズを把握し、円滑なサポート実施につなげること。</li> <li>・ 子ども食堂のニーズを明確にし、発信することで、子ども食堂に関心を寄せる市民や企業、団体などのサポートとマッチングすること。</li> <li>・ 子ども食堂実施団体にとって、他の団体の運営状況を把握し、活動の改善につなげるきっかけをつくること。</li> </ul>
対象	茨城県内で子ども食堂に取り組む 59 の団体
方法	eメールや郵送を通じた書面調査
時期	令和元年 9 月
主体	子ども食堂サポートセンターいばらき（運営：認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ）
協力	茨城大学人文社会科学部田中耕市研究室
備考	令和元年度茨城県子ども食堂応援事業の一環として実施。
回答数	39 団体
回答率	66%

## 目次

主な調査結果 .....	3
① 団体情報 .....	4
② 活動場所 .....	6
③ 主な活動目的 .....	7
④ 開催頻度 .....	8
⑤ 開催曜日及び食事のタイミング .....	8
⑥ 初回実施年 .....	8
⑦ 対象 .....	9
⑧ ボランティア .....	10
⑨ 主な食事の内容 .....	11
⑩ 食に関する体験の機会や知識の提供 .....	12
⑪ 農協、生協など、生産者など関係のある組織に提供してほしい食材 .....	13
⑫ 財政運営 .....	13
⑬ 開催告知方法、子どもの集め方 .....	15
⑭ 会員以外のボランティアの募り方 .....	16
⑮ 連携組織 .....	16
⑯ 課題を抱えた利用者などを他の機関につなげた経験 .....	17
⑰ 利用者などを他の機関から紹介された経験 .....	17
⑱ 他の子ども食堂との連携、つながり .....	18
⑲ 食品衛生関係など、行っている行政機関への届け出 .....	18
⑳ 衛生管理に関する有資格者の存在 .....	19
㉑ 付保している保険 .....	19
㉒ 食物アレルギーの対策 .....	20
㉓ 参加者名簿の有無 .....	20
㉔ 参加者登録制の状況 .....	21
㉕ 個人情報の管理 .....	21
㉖ 子ども食堂を始めたきっかけ .....	22
㉗ 子ども食堂を実施する上で大切にしていること .....	23
㉘ 子ども食堂を始めて良かったと思うこと .....	24
㉙ 子ども食堂を通じて印象に残っているエピソード .....	26
㉚ 団体や個人として、意識が変化したこと .....	27
㉛ 子ども食堂に関連して、社会的に課題と感じていること .....	28
㉜ 子ども食堂運営の課題 .....	29
㉝ 子ども食堂以外に併せて行っている活動 .....	30
㉞ 項目間のクロス集計 .....	31

## 主な調査結果

調査項目	調査結果
箇所数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内 73 か所の内、県南地域が最も多いものの、一人あたりの数では県央地域が最も多い。</li> <li>・ 最も数が少ないのは鹿行地域だが、一人あたりの子ども食堂では県西地域が最も少ない。</li> </ul>
法人格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 任意団体が半数近くに上る。NPO 法人が次点で、約 4 分の 1 を占める。</li> </ul>
活動場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館など行政施設を利用する子ども食堂が半数以上となっている。</li> <li>・ 活動場所を非公開、関係者や利用者だけに連絡しているところが 8 割を超える。</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域での子どもの居場所づくりを掲げるところが最も多く、次点が多世代交流の居場所づくりとなった。生活困窮の子どもの居場所づくりや食料支援を目的に掲げる子ども食堂も少なくない。</li> </ul>
開催頻度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月 1 回開催の子ども食堂が 6 割となっており、ほぼ毎日開催する常設型は 1 割未満にとどまる。</li> </ul>
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども以外の世代も対象とする多世代交流型が約 7 割を占める。</li> <li>・ 6 歳以上 12 歳未満を対象とする子ども食堂が最も多い。次点は 6 歳未満。その親世代である 30 歳以上 40 歳未満を対象とする子ども食堂も多い。</li> <li>・ 生活困窮世帯と思われる子どもが対象の 9 割以上と答えたのが 1 割、5～6 割と答えたのが 1 割である一方、不明との回答が最も多く、約 6 割となった。</li> </ul>
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 分の 2 の子ども食堂が、ボランティアは足りている、またはおおよそ足りていると回答した。</li> </ul>
主な食事の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カレーライスやハンバーグが少なくない。一方、旬の野菜や季節の行事を意識させる工夫を凝らしているところもいくつかみられる。</li> </ul>
食に関する体験の機会や知識の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温かな団らんのある共食の機会を提供しているだけでなく、子どもに配膳を手伝ってもらったり、食べ方や作法、食材の旬などに伝えたり、生産者との交流機会を設けるなど、食育を強く意識しているところも少なくない。</li> </ul>
食材提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8 割近くが農協や生協など、生産者など関係のある組織から食材提供を希望している。</li> <li>・ 肉や魚、季節の野菜、米の提供を希望する子ども食堂が多い。</li> </ul>
財政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受取参加費や助成金で運営する子ども食堂が最も多いが、行政からの補助金や寄付、会費と様々な財源を活用している。</li> <li>・ 子ども食堂を運営するのに、年間 10 万円以上 30 万円未満の経費が発生すると回答した団体が最も多かった。</li> <li>・ 子どもの参加費は 100 円以上 200 円未満とする子ども食堂が最も多いが、無料で運営するところも少なくない。大人の参加費は、200 円以上 300 円未満とする団体が最も多い。</li> </ul>
他の組織との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を抱えた利用者などを他の機関につなげた経験は、半数以上の子ども食堂がなかった。一方、他機関から利用者などを紹介された経験は、約 4 割の子ども食堂にあった。</li> </ul>
衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8 割以上の子ども食堂に、衛生管理に関する有資格者が存在する。</li> </ul>
保険	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア保険や行事保険など、何らかの保険を付保している子ども食堂が 8 割を超える。</li> </ul>
食物アレルギー対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者の緊急連絡先を把握していると回答した子ども食堂が最も多かった一方、特に対応を行っていないと回答したところも多かった。</li> </ul>
名簿や登録制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8 割以上の子ども食堂が参加者名簿を持っている一方、開催時間中なら誰でも参加できるようにしている子ども食堂が大多数となっている。</li> </ul>
個人情報保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何らかの対応をしている子ども食堂がほとんどだが、特に対応を行っていないところも多い。</li> </ul>
運営課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財源確保を運営課題として掲げる子ども食堂が最も多かった。また、支援が必要な子へのアウトリーチ不足や、アウトリーチできているかわからないとの回答も多かった。</li> </ul>
併せて行う活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども食堂に合わせて、昔遊びなどのレクリエーションを行うところが最も多い。宿題のサポートや無料塾を実施する子ども食堂も多い。</li> </ul>

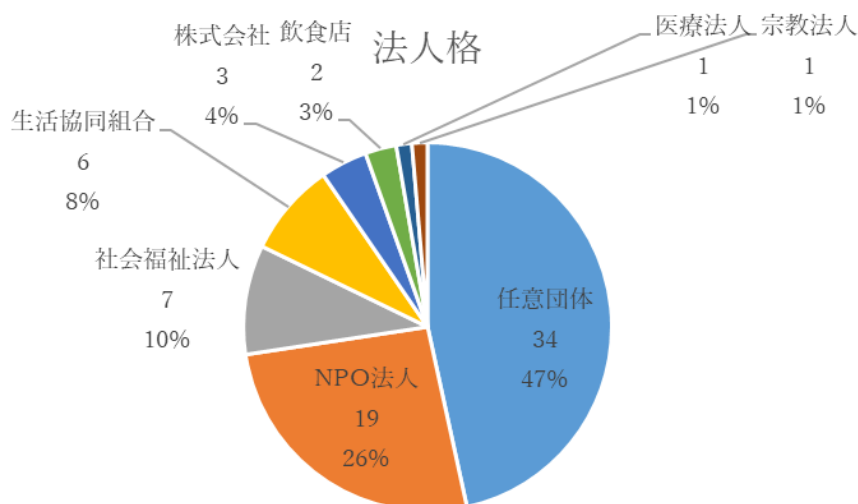
## ① 団体情報

### 箇所数と人口比

地域	子ども食堂数 (A)	人口 (B)	人口比 (B/A)
県北 (日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、東海村、大子町)	16	595,496	37,218
県央 (水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町)	17	458,889	26,993
県西 (古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町)	10	536,712	53,671
県南 (土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町)	24	1,004,707	41,862
鹿行 (鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市)	6	269,430	44,905
合計	73	2,865,234	39,250

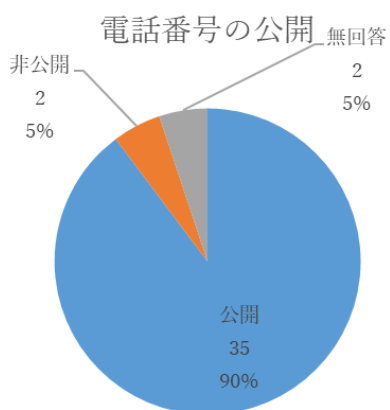
※ 子ども食堂数は 2020 年 3 月下旬現在。

※ 人口は 2020 年 2 月 1 日現在の人口推計。

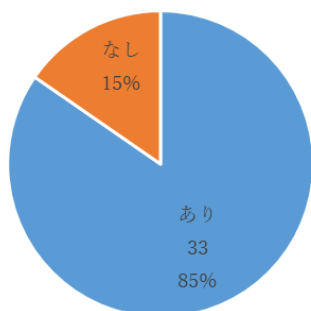


※ このグラフは、令和2年3月下旬時点での公開情報をもとに作成。

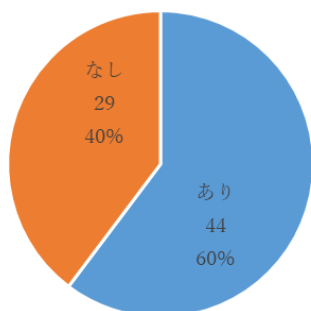
令和元年度茨城県内子ども食堂実態調査 報告書



eメール・アドレスの有無



ウェブサイトやSNSの有無



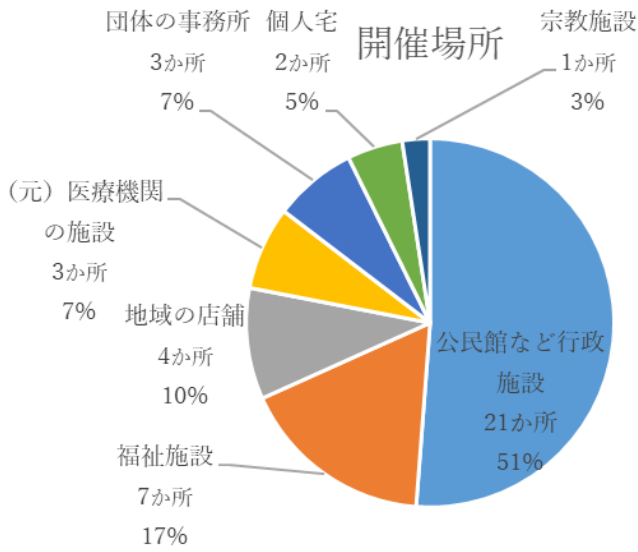
※ このグラフは、令和2年3月下旬時点での公開情報をもとに作成。

会員数

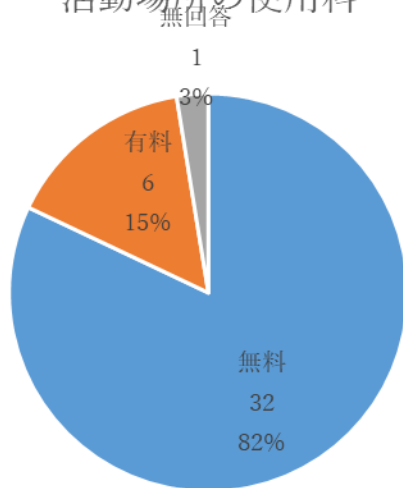
個人	回答数	27	平均値	34	中央値	30
団体		6		7		2

※ 組合員数が数十万規模の生活協同組合の分は、除外して計算。

## ②活動場所

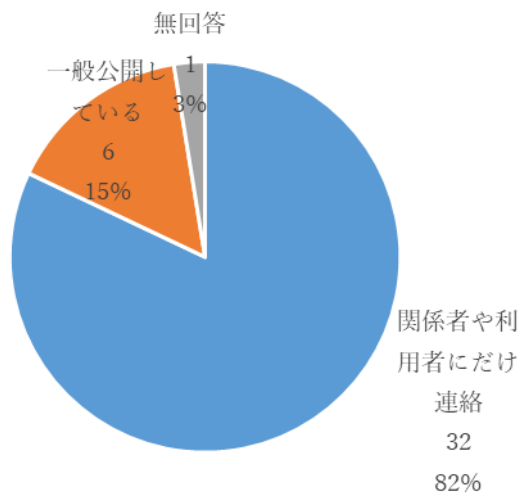


### 活動場所の使用料



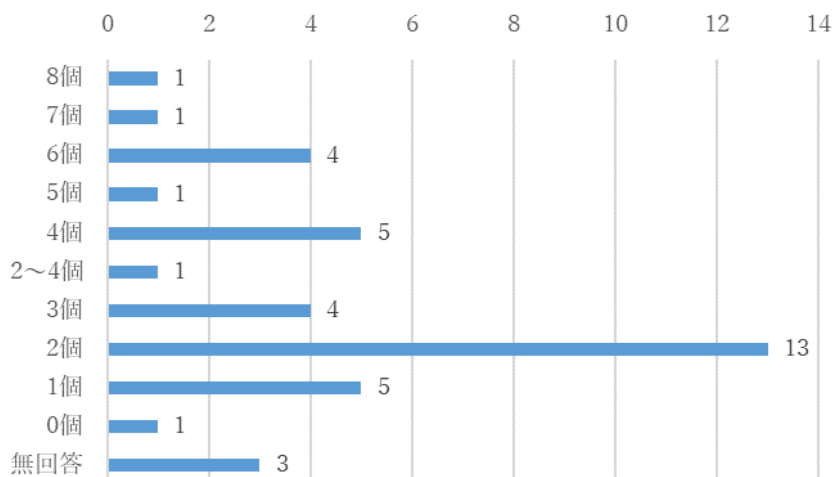
使用料	団体数
¥1,000	2
¥1,500	1
¥3,000	1
¥2,000~¥5,000	1
¥15,000	1

### 活動場所の情報





調理で使っているシンクの数



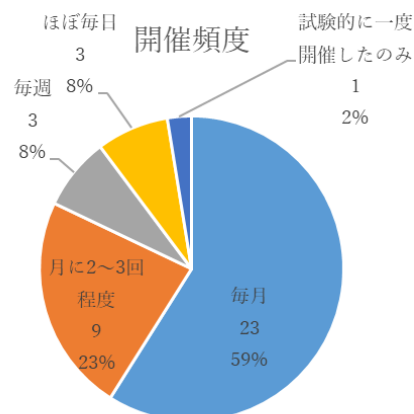
### ③ 主な活動目的

活動目的	回答団体数		合計ポイント（①を2ポイントと換算）
	①最も当てはまる	②該当する	
地域での子どもの居場所づくり	16	17	49
多世代交流の居場所づくり	1	26	28
市民が子育てに関わる地域づくり	1	12	14
食育	2	18	22
子どもの悩みを受け止めることができる関係性づくり	0	14	14
子育てに悩む家族のサポート	0	12	12
生活困窮の子どもへの食料支援	4	16	24
生活困窮の子どもへの居場所づくり	3	20	26
その他	0	3	3

<その他>

- ・ 保護者の方々との関係づくり
- ・ 学習支援
- ・ 高齢者の居場所・交流・孤食を防ぐ取り組み

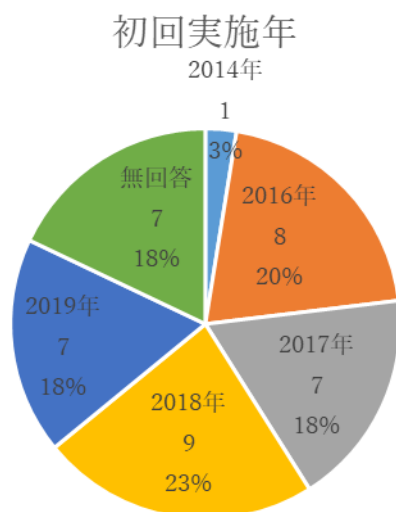
## ④ 開催頻度



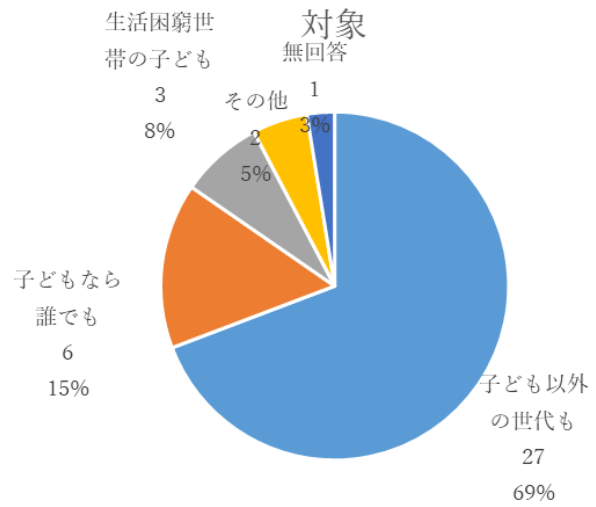
## ⑤ 開催曜日及び食事のタイミング

タイミ ング	平日						週末、祝日					計
	月	火	水	木	金	計	土	日	祝日	指定 なし	計	
朝食	1	1	1	1	1	5	1	1	1	0	3	8
昼食	0	1	0	0	0	1	12	6	1	1	20	21
夕食	6	6	7	12	5	36	2	1	1	0	4	40
計	7	8	8	13	6	42	15	8	3	1	27	69

## ⑥ 初回実施年



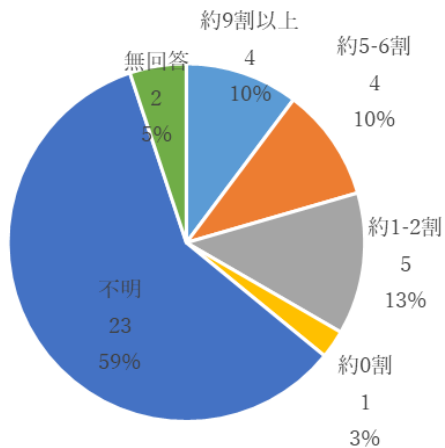
## ⑦対象



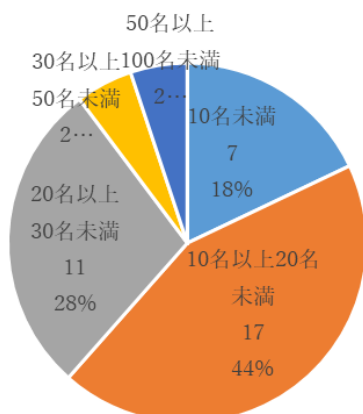
### 現在の利用者の対象年齢

年齢	回答団体数		合計ポイント (◎を2ポイントと換算)
	◎ (最多)	○ (該当)	
6歳未満	3	30	36
6歳以上12歳未満	21	16	58
12歳以上15歳未満	1	24	26
15歳以上18歳未満	0	14	14
18歳以上30歳未満	1	15	17
30歳以上40歳未満	0	27	27
40歳以上50歳未満	1	22	24
50歳以上60歳未満	0	13	13
60歳以上70歳未満	0	23	23
70歳以上	2	15	19
無回答	1	1	3

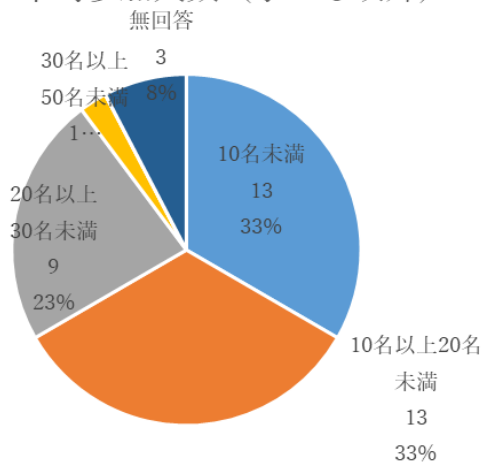
### 生活困窮世帯と思われる子どもの割合



各回の平均参加人数（子ども）

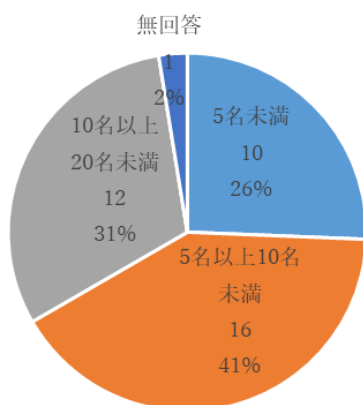


各回の平均参加人数（子ども以外）

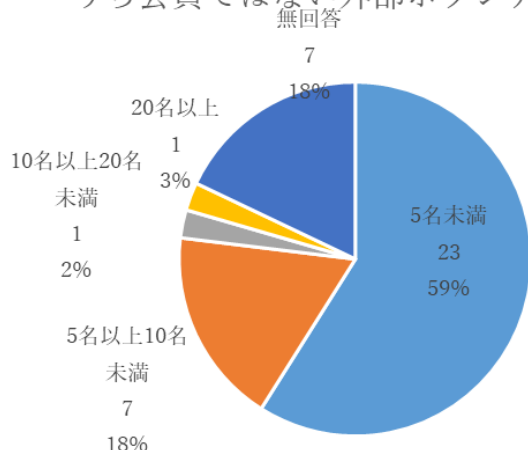


## ⑧ ボランティア

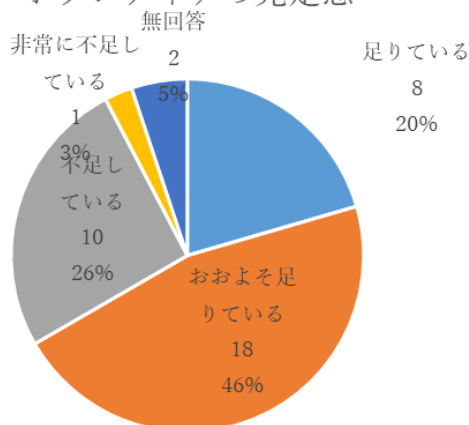
各回の平均ボランティア数



うち会員ではない外部ボランティア数



ボランティアの充足感



## ⑨ 主な食事の内容

- ・ 一汁三菜を心掛けている。
- ・ 地元農家さんよりいただいた野菜を使いメニューを考えます。季節や行事などをなるべく意識します。
- ・ ご飯 汁物 主菜が数品
- ・ バイキング
- ・ ハンバーグ、カレー、白米、汁物、おかずなど（毎月変わります）
- ・ カレー、ハンバーグ、ギョーザ、とんかつ、ピザ
- ・ カレーライス、肉料理など
- ・ カレーライス、サラダ
- ・ カレーライス、焼きそば、オムライス、玉子焼き、野菜、デザート
- ・ カレーライス
- ・ 主食、主菜、副菜、デザート
- ・ 主食（おにぎり・おはぎ）、汁物、サラダ
- ・ ご飯、おかず（病院食）
- ・ 肉のメイン、副菜、みそ汁など汁、デザート
- ・ 和食（白飯、まぜごはん、豆ごはん、赤飯、みそ汁、煮魚、焼き魚、肉じゃが、肉詰め、サラダ、野菜の胡麻和え、フルーツ） 野菜料理が多い

- ・ごはん・汁・主菜・副菜・デザート（時々）
- ・うどんと巻き寿司、カレー、焼きそば、あんかけスープとパン、おにぎり、サラダ
- ・ごはん、主菜、副菜
- ・地産地消でやっているので旬の野菜の持ち寄りや寄付のものの中でやりくりしている。
- ・当初は、食事栄養のバランスを考慮しての定食形式であったが、現在は、バイキング方式に改良変更し、野菜の種類、調理方法を（同種類の野菜であっても味付けや調理方法を変える）考え野菜嫌いな子が多い（家庭環境影響）ので、野菜を食べてもらえる工夫をしている。
- ・5品程度
- ・主食・主菜・副菜・汁物・デザート
- ・ごはん、みそ汁、肉炒め、揚げ物、サラダ、青野菜のおひたし、胡麻和え、デザート
- ・毎回頂いたお野菜を中心とした料理とカレーライスや丼

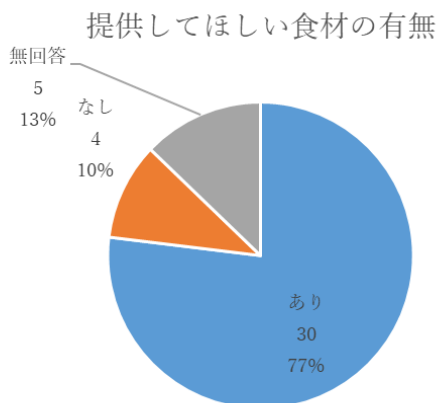
ものが多いです。

- ・丼もの中心のキャンプ料理
- ・ごはん、パン、おかず（肉、魚、野菜）、汁物（味噌汁、スープ、ポタージュ）、デザート（果物、手作りおやつ）
- ・バランスの良い食事（主食・副菜・汁物・デザート）
- ・混ぜご飯、お吸い物、照り焼きチキン、ポテトサラダ、フルーツ
- ・和食 米食が主で主菜・副菜・デザート・飲み物
- ・主菜、副菜 2-3種、汁物、ご飯、デザート。メニューは月替わり
- ・おにぎり、汁物、果物、ハンバーグ、カレー、シチュー、豚汁など
- ・その都度内容が違う。

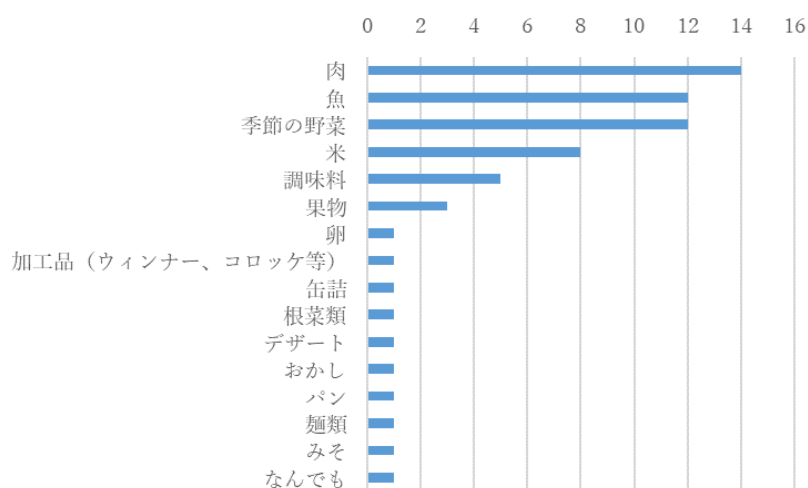
## ⑩食に関する体験の機会や知識の提供

課 題	回答団体数		合計ポイント（①を2ポイントと換算）
	①最も当てはまる	②該当する	
温かな団らんのある共食の機会を提供している	14	22	50
子どもに配膳を手伝ってもらっている	1	17	19
子どもに調理を手伝ってもらっている	1	4	6
食べ方や行儀、作法などについて伝えている	0	14	14
食材の旬や栄養などに関して伝えている	0	13	13
郷土料理や伝統料理を献立に加え、説明している	0	9	9
食事と健康について伝えている	0	8	8
食材の命や生産者の苦労について話している	0	6	6
生産者と子どもが、子ども食堂で交流する機会を提供している	0	11	11
子どもが農業、漁業、畜産業を体験する機会を提供している	0	5	5
その他	0	3	3

## ⑪ 農協、生協など、生産者などとの関係のある組織に提供してほしい食材



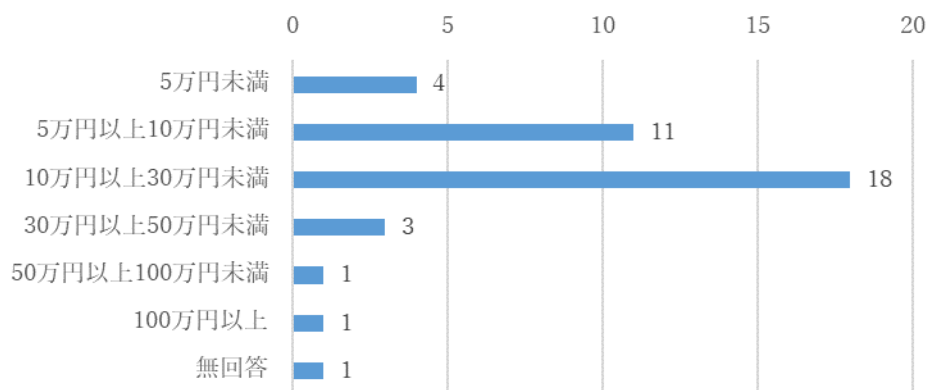
提供希望の食材



## ⑫ 財政運営

活動目的	回答団体数		合計ポイント（①を2ポイントと換算）
	①最も当てはまる	②該当する	
受取参加費	4	20	28
受取助成金	5	12	22
行政からの補助金	4	10	18
受取寄付金	2	9	13
受取会費（受取参加費ではない）	0	10	10
無回答	1	1	3

子ども食堂の活動のみで計算した場合の  
年間の経費



子ども食堂の利用料

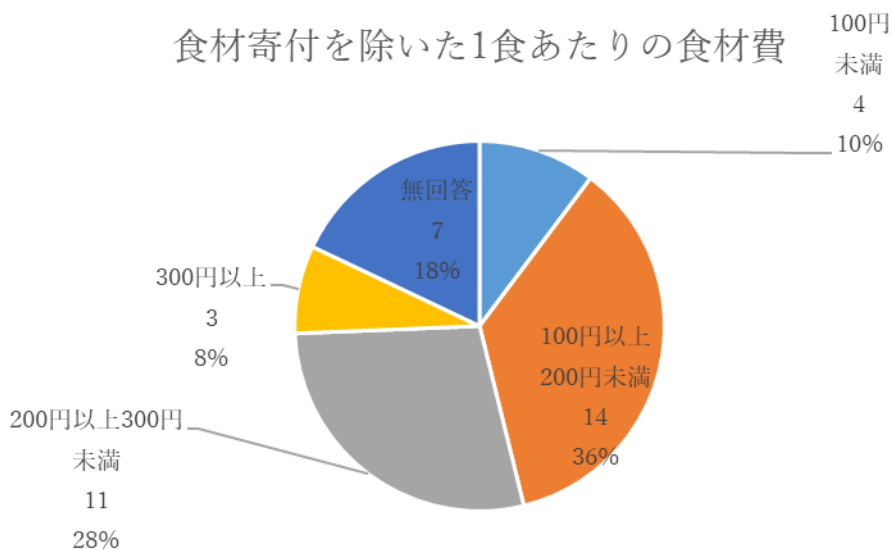
金額	対象					
	子ども	中学生 の年代	高校生 の年代	大人	その他	合計
無料	12	10	8	5	6	41
100円未満	7	6	3	0	0	16
100円以上 200円未満	17	16	10	4	2	49
200円以上 300円未満	2	2	6	16	2	28
300円以上 500円未満	1	1	5	11	2	20
無回答	0	4	7	3	-	14

食材の調達先

調達先の種類	回答団体数		合計ポイント（①を 2ポイントと換算）
	①最も当てはまる	②該当する	
近隣住民の寄付	1	25	27
近隣農家の寄付	5	11	21
近隣農家からの購入	2	3	7
農協からの寄付	2	8	12
生協からの寄付	0	2	2
スーパーでの購入	1	11	13
フードバンクからの寄付	0	3	3
その他	2	9	13



食材寄付を除いた1食あたりの食材費



## ⑬ 開催告知方法、子どもの集め方

手段	回答団体数		合計ポイント（①を2ポイントと換算）
	①最も当てはまる	②該当する	
チラシ	6	22	34
個別の声かけ	2	15	19
市報など公報	0	12	12
ウェブサイト	2	7	11
SNS	1	7	9
eメール	0	5	5
町内の回覧	0	5	5
新聞などマスメディア	0	4	4
その他	0	7	7

### その他

- ・ポスター（同意見2つ）
- ・のぼり旗
- ・近隣中学校へ呼びかけ依頼
- ・利用している子どもたちからの声かけ
- ・定着しているので新たに告知はしていない。（同意見2つ）

## ⑭ 会員以外のボランティアの募り方

手段	回答団体数		合計ポイント（①を 2ポイントと換算）
	①最も当てはまる	②該当する	
個別の声かけ	7	19	33
チラシ	2	13	17
市報など公報	0	11	11
SNS	0	6	6
ウェブサイト	1	3	5
eメール	0	2	2
新聞などマスメディア	0	2	2
町内の回覧	0	0	0
その他	2	3	7

### その他

- ・ 団体発行の通信
- ・ 社会福祉協議会より募集。
- ・ 同時開催の無料塾と連携。
- ・ 女性の集まりは難しいので、公募しない。

## ⑮ 連携組織

連携内容 組織区分	ボランテ ィア参加	食材 提供	会場 提供	資金 支援	広報 支援	衛生管 理支援	その他	合計
行政	5	0	9	15	15	7	0	51
社会福祉協議員	7	3	7	7	13	2	3	42
NPO	5	2	1	3	5	2	4	22
企業	2	12	3	3	3	2	2	27
生協	0	7	1	4	3	4	0	19
農協	0	19	0	0	2	0	1	22
メディア	2	0	0	0	8	0	1	11
大学	5	0	0	0	3	0	0	8
大学以外の学校	10	0	0	0	2	0	0	12
自治会・町内会	5	2	1	0	7	0	0	15
PTA	4	2	0	0	1	0	0	7
その他	2	2	0	2	1	0	0	7
合計	47	49	22	34	63	17	11	243

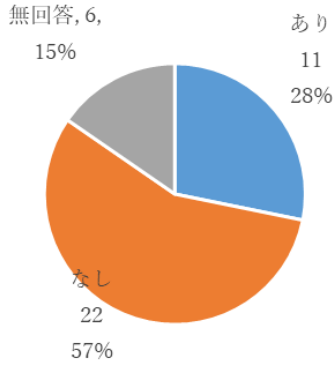
### その他

- ・ 子供育成会
- ・ 高校生会
- ・ 近隣商業施設
- ・ ライオンズクラブ

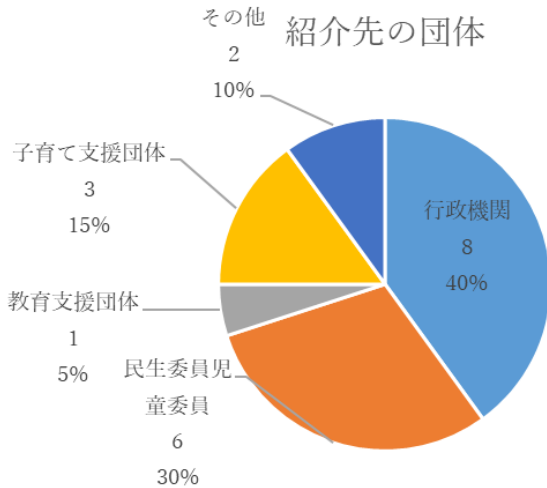
## ⑩課題を抱えた利用者などを他の機関につなげた経験

課題を抱えた利用者などを他の機

関につなげた経験



紹介先の団体



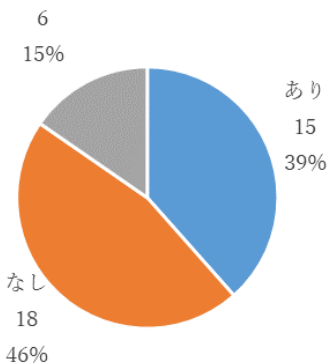
行政機関：市役所、児童相談所、  
所管警察署、家庭相談員

その他：心療内科や病院、訪問  
看護、NPO 法人、利用する保護者  
や子どもたち

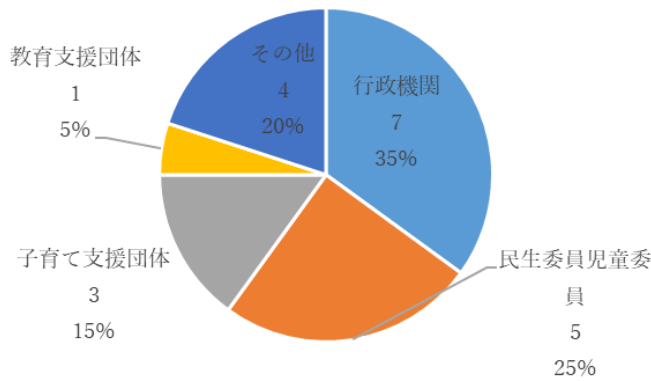
## ⑪利用者などを他の機関から紹介された経験

利用者などを他の機関から紹介

された経験



紹介元の団体

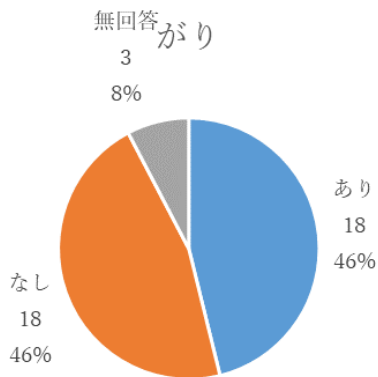


行政：市役所、学校、警察、市役所福祉課、子育て支援課、教育委員会教育センター等

その他：社会福祉協議会、NPO

⑱ 他の子ども食堂との連携、つながり

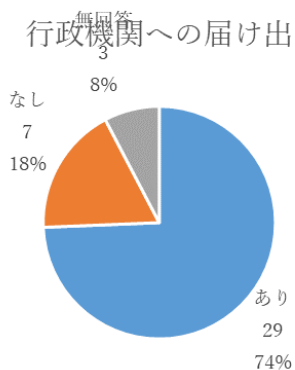
他の子ども食堂との連携、つながり



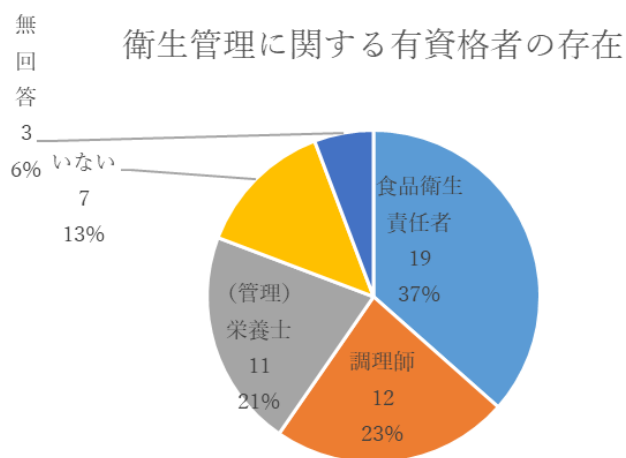
- ・市内の他の子ども食堂
- ・県央こども食堂ネット「おかえり」
- ・こども食堂ネットワーク
- ・食材提供の話をしているが、日時が合わず、まだ行っていない。

⑲ 食品衛生関係など、行っている行政機関への届け出

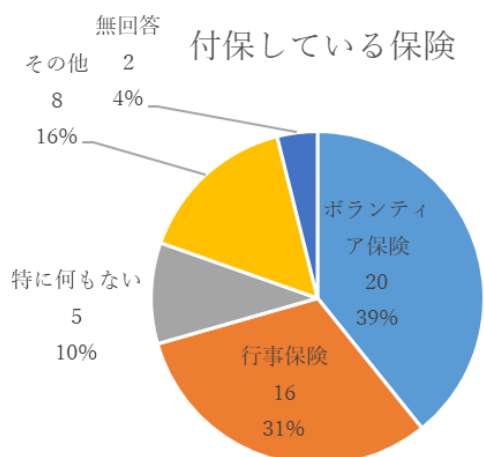
食品衛生関係など、行っている



## ⑳ 衛生管理に関する有資格者の存在



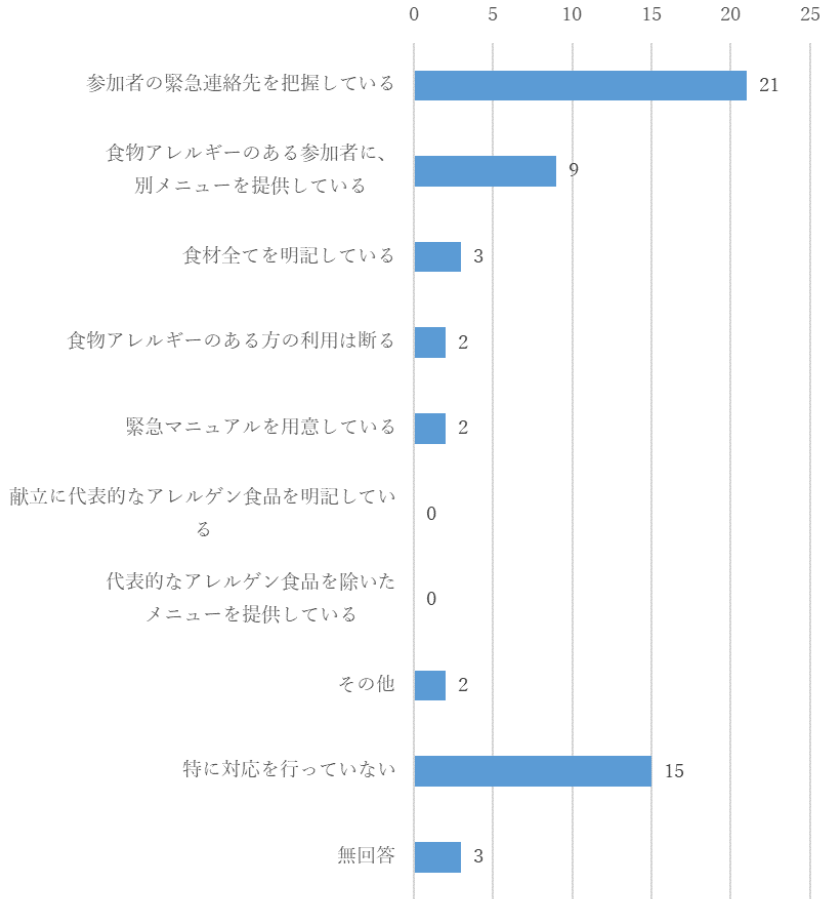
## ㉑ 付保している保険



**その他**：損害賠償責任保険、福祉サービス補償、食中毒保障保険、食品衛生保険、塾保険、NPO 総合活動保険、スポーツ保険

## ⑳ 食物アレルギーの対策

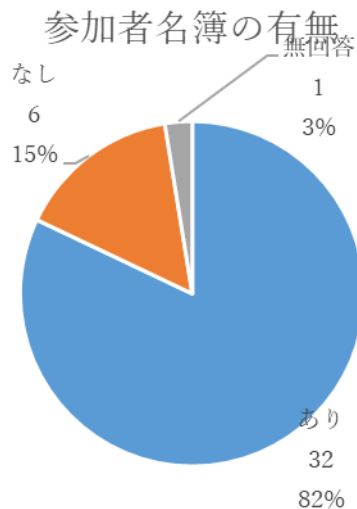
食物アレルギーの対策



### その他

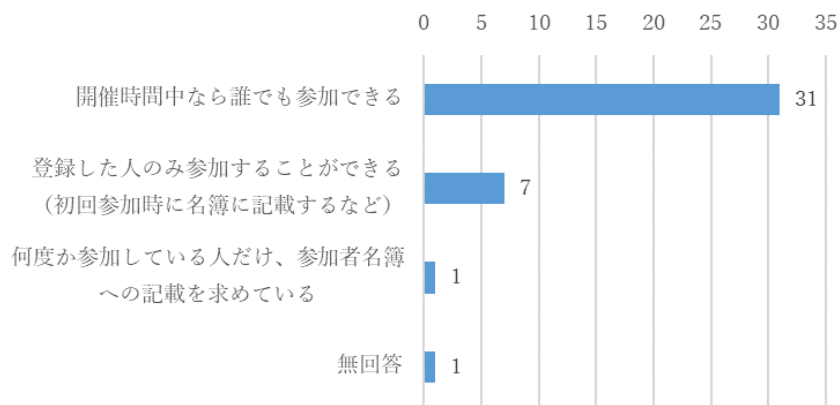
- ・登録用紙にアレルギーがあれば記載してもらう。
- ・アレルギー、宗教、ポリシーなどにより摂取できる食材が限定される参加者には食材を持参するよう案内している。

## ㉑ 参加者名簿の有無



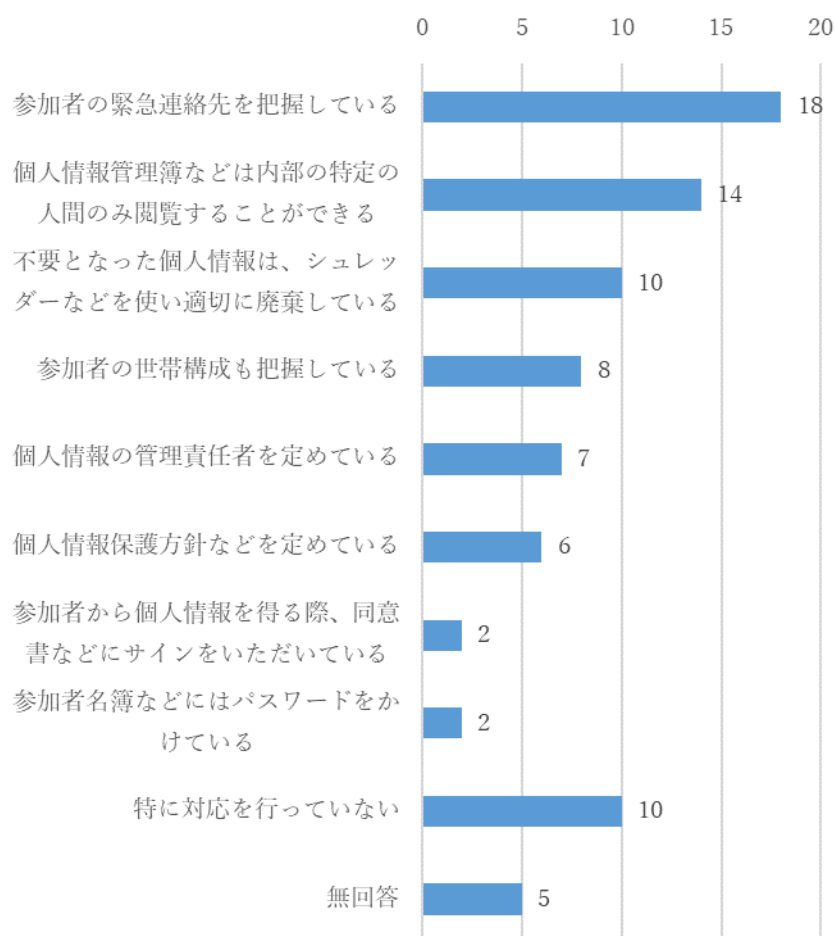
## ②④参加者登録制の状況

参加者登録制の状況



## ②⑤個人情報管理の管理

個人情報の管理



## ②6 子ども食堂を始めたきっかけ

- ・ 気まぐれ食堂「だんだん」さんのTV放映を見て、「子ども食堂」の存在を知りました。自分の理想とするボランティアと思い、2016年春より個人で当地に開設準備をはじめたところ、医療法人「志村大宮病院」様が病院施設内厨房、会食の場を提供して下さる縁をいただき、開設に至る。
- ・ NHK放送（だんだん）のテレビを見て自分も1人でもやってみようと考えた。
- ・ 野田市の小4虐待事件
- ・ 3年前に西日本新聞の記事で見た。
- ・ 子供の貧困の学習会に参加して。
- ・ 2018年3月の県で行われた学習会に参加して子ども食堂を行っている方々の悩みを聞いた時、私たちの団体ならできると確信した。4月より計画を立て7月オープンとなった。
- ・ 2018年6-7月につくば市竹園交流センターで開催された市民講座「貧困の連鎖を絶ちきろう！～私たちにできることってなんだろう～」に参加した有志が集まり、7月14日に結成した。
- ・ 子育てがひと段落ついてきたところに、自分の時間ができて、何かに喜んでもらえる事を・・・と、思っていた。
- ・ ママ友のウォーキングで子どもたちの悩みを話している中で、PTA活動の経験から子育てサポートしたいと思い始めました。
- ・ 子供の居場所の必要性を感じて。
- ・ 子供の居場所をつくりたかった。（地域で自由に交流しあう子どもを見かけなくなった）
- ・ 学校や家庭とは別な子どもの居場所を提供しようと思った。
- ・ 地域三世代交流を持つため。
- ・ 地域コミュニティの形成を目的。子どもの居場所、子どもからお年寄りまでみんなが集まる居場所づくりを目的として始めました。
- ・ 地域貢献活動の一つとして、子どもたちから高齢者まで、幅広い世代が楽しく会話しながら食事を楽しむことができる場所を提供する。
- ・ 預かり支援を通して子どもが成長（自立心や満足感）する中で、食べることの比重の大きさを感じた。食を通じてつくること、食べることの楽しさ、感謝の心、人への思いやりを育むため始めた。
- ・ 活動の性格上、ハード、ソフト面で条件が揃っていたこと。暮らし、食育、子供等に興味があったこと。
- ・ 地域での共食を通して孤食や貧困を考えるきっかけづくり（同意見4つ）
- ・ 食事を十分に取れない子どもたちや、孤食の高齢者に、楽しく食事できる場所とコミュニケーションの場の提供。
- ・ 継続していれば必要としてる人に届くかもないと思って始めた。
- ・ 全国の貧困がニュースとなり料理作りが好きなお婆さんができることはないかと考え「孤食をなくそう」と始めた。
- ・ 身近に生活困窮者がいたことがきっかけの一つ。生活困窮による栄養失調や個食など、子ども食堂を必要とする子どもがいるため。
- ・ 生活困窮の子供たちに食事の支援を希望していました。
- ・ 食事に困っている子供隊を助けるため。
- ・ 子ども電話相談において、困窮している子どもたちの現状がみえてきたから。
- ・ 生活困窮者世帯の子どもの学習支援事業でらこむを運営しており、困窮世帯の子どもの栄養状態や食育などの支援の必要性を感じたため。生活困窮者向けの学習支援事業から課題を発掘し、対策を練るためにボランティア・ベースで立ち上げた。
- ・ 無料学習会を始めるにあたり、色々な他県で行なっている無料塾を見てきたが、生活困窮の子供達は勉強の前に満足に食事が取れていないので、学習効果も上がりにくいということを知り、始める前に、地域のライオンズの方々にボランティアをお願いしたことから始めた。
- ・ 社会福祉協議会に勧められたから。
- ・ 子どもの貧困への関心。笠間市社会福祉協議会自立支援事業担当職員の協力があったこと。
- ・ いばらきコープの働きかけがきっかけで、社協の支援、地域住民の協力、無料塾との連携で開催。
- ・ 園長先生からの働きかけにより始まり、実際に他施設の見学に行き、地域の交流は大切なことだと思い開催することにした。



## ②7 子ども食堂を実施する上で大切にしていること

- ・まずは参加者が楽しいと思うことのできる場づくり（同意見 5 つ）
- ・来た人が笑顔になれる居場所づくりとして、スタッフが笑顔で接すること。おいしい食事づくりや飽きないメニューを心掛けている。
- ・子どもが自由に出入りできる場所を提供する。
- ・誰もが気軽に立ち寄れること。
- ・食事でおなかがいっぱいになることと、誰でもいつでも入って食事ができるようにしていること。
- ・温かい雰囲気づくりとお腹いっぱい食事していただくこと
- ・みんなでランチを楽しく食べられるような環境・雰囲気づくりを工夫した。レストランのように飾ったり、テーブルをつけてみんなの顔が見えるようにしている。
- ・話を聞いてあげること
- ・なるべく参加してくれた子どもたちやお年寄りとお話すること
- ・そのままの子どもを姿を受け入れる。
- ・子どもも大人も楽しく安全でいられる場所づくり
- ・様々な家庭環境の子どもが参加しているので、この時間は明るく楽しい時間になりたい。
- ・目の前の子どもたちが困っていることを何でも対応しよう。その時に、親の依存や何でそうなったのか？を問いたくなる者もいるかも知れないが、徹底して子どもの困っている事だけに視点をおこう！
- ・家族団欒の時間を過ごしてほしいこと
- ・会食の楽しみを中心とした町の井戸端的な位置づけで「子育て中のファミリー」も参加しやすいように呼びかける。
- ・出会った人々の絆を大切にしてほしいこと
- ・地域の皆さんとの交流やつながり。みんなでつくって、みんなで食べること。
- ・居場所（楽しい食事・異年齢との交流）。次も来たいと思ってもらうこと。
- ・子どもたちの自由な行動に任せ、大人があまり縛らないようにしている。
- ・少なくとも月に 1 回は継続開催する。
- ・ボランティアスタッフが仲良く、楽しく過ごせること
- ・友好的ボランティア関係
- ・たくさんありますが、特にボランティアさんは、大変です。そんな中、活動して行く上で楽しくプレッシャーにならないように、できる限りの気配りをしています。
- ・臨機応変な対応
- ・子どもと保護者が「ああおいしかった」、「またくるね」と言ってもらえる食事をつくること。
- ・野菜を多く使った食事の提供
- ・メニュー
- ・食べることの大切さや感謝の気持ちを持つこと。
- ・地産地消、食材を無駄にせず、いただいた方に感謝しながら食べさせてもらうこと。
- ・食材をご提供くださる農家、個人、企業の寄付品は預かり品であり、それらを食堂スタッフが調理し、お客様に提供する事が任務だと感じた。そのため、提供者に敬意を表し、お客様には安価な食堂と思われぬよう、品格を持って開催するよう心掛けている。
- ・様々な料理を味わい、楽しんでもらいたい。世代を超え、様々な人と交流して欲しい。 孤立防止！！
- ・衛生的、安全に調理を行うこと。（同意見 2 つ）
- ・衛生管理、雰囲気づくり
- ・個人のプライバシーを守る。
- ・仲間同士力を合わせて献立から片付けまで責任を持って行うこと
- ・子どもたち自ら、調理から後片付けまでを行う。
- ・セルフサービスで子ども達が配膳や後片付けの習慣を学び、親の大変さが理解できるようになって欲しいこと
- ・季節の行事
- ・季節感、行事食
- ・共食の機会の提供、親同士の情報交流、食材提供など地域住民の理解協力、ボランティアの参加
- ・学童クラブからの小学生の参加が多くにぎやかになっています。これからも、近隣のいくつかの学童クラブとの連携を大切にしたいと思っています。
- ・学習の合間の休憩時間 30 分なので食事をしたり、子ども同士のコミュニケーションをする時間となっているので、できるだけ子どもたちがしたいことを自由にできる時間にし、楽しく過ごしてもらうようにしている。また学習と食事時間のメリハリをつけるように。
- ・世代と国籍を越えた交流を目指し、シニア世代や外国籍の市民にも参加を呼びかける。
- ・みんなと一緒に英会話に行っている。（ボランティアはアメリカ人）保護者の方々にも手伝ってもらいながら、コミュニケーションを図るように心がけています。
- ・ランチ交流会を重点活動にするが、それが全てではない。

## ② 子ども食堂を始めて良かったと思うこと

<p><b>子ども にとって</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加している方々が喜んでいて笑顔になること</li> <li>・ 小学生の子どもたちが元気で来てくれていること</li> <li>・ 子ども食堂を毎回楽しみにしているお子さんが、お腹いっぱい食べていく姿を見ると初めてよかったと感じる</li> <li>・ 子どもたちが長期休みなどはここで食べる夕食が一食目という子もいて、そういう子がお腹一杯食べる姿を見たり、子供達の笑顔がたくさん増えてきたことが、良かったと思う</li> <li>・ 食育に効果があった</li> <li>・ 参加する子どもたちが自宅の冷蔵庫の中身を気にするようになった</li> <li>・ 自宅で調理を再現する子どもが現れた</li> <li>・ 子どもたちが、おおきくなって、何とか道が見えてきたこと</li> <li>・ 他人に対し警戒心が強く、表情の硬かった子どもたちの表情が豊かになってきた</li> <li>・ 万引きしなくなった。警察のお世話にもならなくなった</li> <li>・ 家庭でもなく、一般食堂でもなく、第三の食事の場として「子供食堂」の立ち位置の存在を必要と感じた</li> <li>・ 新しい利用者さんが来てくれた時</li> <li>・ 時には、やんちゃな子どもたちと取組み合いになったり、夜通しスタッフと探し歩いたり、学校ややんちゃな子どもたちの近隣に誤りに行く、子ども世帯が契約している不動産会社や大家さんに謝罪に行く等々。いつも駆け足で動かなければならないことも多々あるけれど、そんな時間の経過の中でやんちゃな子どもたちや困っていた子どもたちが少しずつバイト等できる様な年齢になり、お金を稼げるようになって何とかなるのが見えてきた時のうれしさは、私たちだけじゃなく、利用している子どもたちも喜ぶ</li> </ul>
<p><b>子育て世帯 にとって</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親たちも快く参加してくれていること</li> <li>・ カフェタイムをつくり、少しの時間子どもとの距離を置くことでリフレッシュができたり、保護者同士で情報交換したりできて良かったと聞き、子育てに疲れずに過ごせるのではないかと思った。帰りは親子共々笑顔で帰っていく</li> <li>・ 本来貧困家庭や独食の支援が根底にありましたが、やってみてわかることは、どこの家庭でも、一人親でも、二親家庭でも、食事することに悩みを抱え、メニューや調理法や食材の組みわせなど、また何品も盛り付け、食べるうれしさを味わっていることを実感しました</li> <li>・ 親から家では食べない野菜も食べていると喜ばれること</li> <li>・ 保護者の方々に定職者が増えてきたこと</li> </ul>
<p><b>地域 にとって</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人と人がつながって、笑顔あふれる居場所になっている</li> <li>・ 子どもから大人まで居場所を作れたこと</li> <li>・ 子どもから高齢者までが一つの会場で、楽しく語らいながら食事を楽しんでいる姿を見られること</li> <li>・ 子ども同士、親同士、ボランティアの交流の輪が広がったこと</li> <li>・ 少しずつだが交流が広がっている。</li> <li>・ 大人の方（親・地域住民）も来るようになり、地域の交流の場になってきている</li> <li>・ 独居の女性たちがやりがいを持って参加できていると伝えてくれた</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5年前に小学生だった子どもが、高校生になって手伝ってくれていること</li> <li>・ はじめは子どもたちが来てくれるか心配でしたが、毎回 40～50 名、餅つきの時 92 名と参加していただき、小さな子どもからお年寄りまで楽しみにしてくれていることが、やって良かったなあ日々感じています</li> <li>・ なんとと言っても家族が増えたこと！</li> </ul>
<p><b>子ども食堂 運営者にと って</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもがおいしいと言ってくれたこと</li> <li>・ リピーターに恵まれ、楽しんでいただけた感想を数多く得ていること</li> <li>・ 子どもたちの笑顔がとても良い</li> <li>・ 集団での食事であるけれど、皆仲良く飛び切りの笑顔に出会えていること</li> <li>・ 子どもの成長実感できる</li> <li>・ 子どもたちも増えてきたこと</li> <li>・ 小さな子どもの兄弟を支えている姉が、いつも来てくれること</li> <li>・ 皆が親切に過ごしていること</li> <li>・ ボランティアの大切さをしみじみ感じていること</li> <li>・ 素晴らしい仲間に出会えたこと</li> <li>・ 多くの方と知り合えたこと</li> <li>・ 人付き合いの幅が広がったこと</li> <li>・ ボランティア交友関係の広がり</li> <li>・ 同じ想いのある方との交流。自分も教わることが多い</li> <li>・ 地域との交流が持てるようになってきたこと</li> <li>・ 地域の理解が進んだこと</li> <li>・ 生業としている若手就農家との出会いにより、真摯な姿勢から農産物の価値を知り、食品ロスへの意識が変わった</li> <li>・ スタッフの居場所ができた</li> <li>・ 70 歳前後のスタッフですが、楽しく前向きに取り組んでいること</li> <li>・ スタッフの知らない世界を知ることになり、やりがいを感じるようになった</li> <li>・ 個々のスタッフが、家族向け日常の食事作りを、お客様に食べていただく機会や場を得て、調理への向上心が生まれた</li> <li>・ 学習支援だとボランティアさんのハードルが高いが、調理イベントだと参加しやすい。そのため、社会課題への認知やサポートしたいという人が増えた</li> <li>・ いつも来てくれる子どもたちがいること。小学生が中学生になっても来てくれること。子ども食堂のための畑ができて、これからさらに地域の人との交流が持てるようになりそうなこと</li> <li>・ 子ども食堂のやんちゃな子どもたちや、社会から孤立していた、それはないだろうというぐらいクレームな保護者たちから教えてもらった感覚が本当にありがたく、嬉しく、良かったなみんな何とか大きくなった。</li> <li>・ 人が暖かいことがこんなにもありがたいこと、嬉しいこと</li> <li>・ 子どもたちとその親・手伝って下さるボランティアの方々、寄付をして下さる方々等々数え切れない人の優しさが子どもたちを通して関わったことに感謝します</li> </ul>

## ②子ども食堂を通じて印象に残っているエピソード

- ・ 特別な料理を提供しているわけではないのに、思った以上に子供やお母さんたちが喜んでくれたのは嬉しかったです。
- ・ 子どもたちや、高齢者が帰りがけに「ごちそうさま、おいしかったよ。」と声をかけてくれる。
- ・ 子どもたちの素直さに感動です。感謝の心を持っていることがすごいですね。
- ・ 子ども食堂に来ている子と道で会ったら、「こんにちは」とあいさつしてくれてうれしかった。
- ・ 初対面の子どもたちがすぐに打ち解け、友だちになっていくこと。
- ・ 野菜嫌いの子が、食べれたよと報告してくれたこと。好き嫌いを少なくしていきたいですね。
- ・ 小さい子どもが、お代わりをたくさん食べてくれた。
- ・ 食の細い子どもが食べられるようになった。
- ・ 「○○ちゃん、良かったね。家では茶色しかない食事だもんね。」と言う、付添い親族の言葉の意味がしばらく理解できなかった。「緑・赤の野菜、果物などのカラフルな食事をしたことがない」ということだと最近わかった。
- ・ 果物をあまり食べないのか、寄付で果物をいただいた時に、一人で5〜6個食べる子がいた。基本的にあまった食事は衛生上、持って帰らないように言っているのだが、ある子は「お母さんにも食べさせてあげたいから持って帰りたい」と男児が言った時には、そっと他の子にわからないように持たせたが、心が痛い思いだった。
- ・ ご飯だけを取りに来る子どもがいて、おかずは自分の分を妹たちに分けていることを知って、ご飯とおかずを一緒に持たせたこと。
- ・ 不登校だった中学生が子ども食堂に来て、「ここはホッとできる」と言ってくれたこと。
- ・ う〜ん、毎回の様に何か「事件です！」があるからな・・・。話すことができなかつた、話さなかつた子が、突然話してくれたことかな。
- ・ はじめは母親と子ども、次は大きな子ども、そしてお父さんが参加するようになった。
- ・ 小学生と幼稚園生を抱え、孤軍奮闘している父親が、「子ども食堂を通じ、子どもたちがいろいろな食材を食べることができ、自分も民生委員さんとつながりを持って、地域の方々に感謝の気持ちを持てるようになった」と明るい口調で電話をいただいたこと。
- ・ 「小学生になってから、また来られると思ってもいなかったもので、懐かしいやううれしいやら、おいしいし、来て良かった」と保護者と小学生兄弟（2名）
- ・ 使用した食器を子どもたちから、「洗うのを手伝うよ」と声をかけてくれる。
- ・ 参加保護者、子どもたちが配膳や片付けの手伝いに参加すること。
- ・ 子ども主体の感謝のカレーづくりを行った。支援いただいている方を招いての食事会では、たくさんの方に温かく支えてもらっていることを改めて知ることができた。
- ・ 食事を食べるとすぐ帰っていた人たちが、30分以上にここにこた人の話を聞いている居場所になったとき
- ・ 地域柄、日常的に孤食のお年寄りや、外食を望んでいるがお店に躊躇している老人の方が多く存在します。生産者が見え、つくり手が見え、食する人が見える希少な食事の場であることを実感しています。
- ・ 社会に対して何かしたいという人が多いなと感じたこと。
- ・ 調理ボランティアとして参加してくださっている方々が、主催者の語るビジョンや理念と同じことを他の市民に話していた。経験のないボランティアが集まりできたチームですが、知らない方や飛び込みで子どもたちを楽しませてくれる人が来店。
- ・ 地域の高校生がボランティアに来てくれるようになり、子どもたちが生き生きと勉強したり、遊んだり、楽しんでいる。
- ・ 高校生が毎回参加して積極的に関与してくれるようになったこと。
- ・ たくさんあるのですが、子どもにおいしかったと言われたボランティアのおばあちゃんが泣いてしまったこと。
- ・ 野菜を届けてくれる方が継続している。
- ・ 毎回新鮮な有機野菜を提供してくれる農家のおかげで、野菜嫌いの子供が減ったこと。
- ・ 隣の建物にいた障がい者作業所の人たちも来てくれて、スタッフの歌やゲームを喜んでくれたこと。
- ・ 親子連れが2組いたところに、年配の男性が子どもたちに手品を見せたいと参加してくれました。家では妻の介護職をつくっている故、たまにはつくってもらって食べるのは息抜きになっていいものだと言って、食後に参加していた。家族の方たちに手品を見せてくれました。とても和やかなひと時でした。
- ・ クリスマスにピンセータをやったらとても盛り上がりました。0円マーケットでは、いつもの子どもたちがおもちゃや文房具を喜んでもらっていくのでうれしく思います。
- ・ 開設場所の卓球台に小中高生が多たむろするので、来るように誘う。来ると言ったのに来ないので見に行くと、コーラとお菓子を6人ほどで食べていた。お金があれば、給食のような食事よりお菓子のほうが子どもに魅力的。



## ③⑩ 団体や個人として、意識が変化したこと

- ・ 貧困の方を対象に考えていましたが、居場所づくりが大切だと思いました。
- ・ 生活困窮支援より、共食の機会提供を主とするようになったこと。
- ・ 生活困窮者や個食以外にも、多人数の家族や交流の場として食堂を必要としている人が分かった。
- ・ どんな食事でも、みんなと一緒に食べることは、子どもたちにとって重要なのだと実感した。
- ・ 開設当初、想定顧客を誰にするか答えが出ぬまま始まり、開催して行く中で、「どなたでも来てください」と声を出して紹介できる食堂になっていった。
- ・ 自分の周囲にはいないと思っていたが、実は見えていないだけだったと理解した。
- ・ 一人で食べている子どもや、母子家庭の子どもがとても多いこと
- ・ 「孤食」だけでなく、「個食」や「固食」など、たくさん問題を持っている人々が、たくさんいることが分かったこと
- ・ 日常の一食を調理するのは、両親や祖父母に限らず、誰がつくって食べさせても良いと思った。子ども、大人、年齢に関係なく、その人を取り巻くつくれる人がつくり、食べたいと望む人に食べていただく、そのような公共の場が必要だと思った。
- ・ パパママ自分の食事から多世代と食べる食卓への広がり
- ・ やればやるほど、自分たちでできることは限られている（困窮世帯へのリーチ、高齢者の参画、ボランティアの疲弊）と感じているため、広く深く巻き込む方法を考え始めた。
- ・ 少しずつ子ども食堂のことが民間に知られるようになって支援の輪が広がった。
- ・ 特に開設当初は、アピールにありとあらゆるところにチラシ、ポスターを入れたが、ほとんど効果なく。今はやり続ける中で認知を広げて行こう。一時はシルバー世代があふれたりしたが、来た人が援助を必要とする人と考えるようにしている。
- ・ 子ども食堂を必要と思っている人が多いと感じる。
- ・ 対象は決まっているが、参加したい子どもや親は多いと思います。
- ・ 1 人暮らしの方に、子ども食堂にお誘いしたら、次からボランティアになってくれたこと。みんなと食事をして帰られます（2 名）
- ・ 食事の問題について、より関心が高まった。
- ・ 衛生面で気を付けるようになりました。お持ち帰りとかしたい人もいると思うのですが、それはお断りしているので。
- ・ 市の助成金を受けて、一般公開したことにより、食事以外の取り組みも意識するようになった。
- ・ もう少し規模を小さくして、提供するメニューのグレードを上げたいなと思いました。
- ・ 毎月 1 回の開催ですが、第 26 回までやれました。当面、これからも継続して開催できる態勢になっています。スタッフの人たちも前向きに取り組んでいます。今のところ、楽しくやっています。大変心強いことですが、冷静に見れば、スタッフの平均年齢は 70 歳前後であり、今後の中長期展望はよく考えなくてはなりません。
- ・ 支える側にいたつもりだったが、今は地域の子どもの食堂ボランティア団体が、11 団体、合計 60 名前後、学習ボランティアの登録数が、3 教室全体で 65 名と 125 名を超える市民のボランティアの方々から支えていただいていることで、成り立っているため、支えていただいているのが自分たちの方だと意識が変化した。
- ・ 子どもたちのパワーのすごさに自分自身もいろいろな面で救われ、育てられている。生きる意欲が向上している。
- ・ あまりないかもしれませんが、みんな楽しく参加してくれているようです。
- ・ 地域交流は常にしているので、変化することはない。
- ・ 記入者個人ってことですか？あまり意識の変化はないかな。団体としての変化？支援者が増えた！ことかな。
- ・ 子どもたちや高齢者の笑顔で、また来月も頑張ろうという気持ちになれる。

## ③1 子ども食堂に関連して、社会的に課題と感じていること

- ・「こども食堂＝貧困」。このイメージを変えた方が良くと思います。地域性がかなりあります。貧困家庭でなくても気軽に利用できれば、逆に貧困家庭が利用しやすくなると思います。
- ・「子ども食堂＝生活困窮者」として見られる。本当はそうなのでしょうが、実際は恥ずかしくて参加しにくいと思うので、子どもの居場所で良いと思う。
- ・「子ども食堂＝貧困や困難を抱えている人が行く場所」という固定観念が払拭できていない。学校へのチラシ配布をしても、手にした母親の判断で廃棄されてしまう。本当に困難を抱えている方にとって、まだハードルが高い場所になっている。
- ・貧困の世帯を対象とした子ども食堂のイメージが強い。
- ・貧しさではなく楽しさ、居場所、食育の場として用いられるように。
- ・「子ども食堂」を誤解している大人が多いこと。例えば、生活困窮者が行くところが「子ども食堂」と持っている人が多い。
- ・本当に困っている子どもが、気軽に来られるようになってほしい。
- ・貧困家庭の子どもへの対応については、これからの検討課題です。
- ・経済的困窮ばかりクローズアップされているけど、時間の困窮もかなりある。パパ、ママも長時間働いて、やっと家庭が成り立っている今、もっとゆとりを。
- ・学習会とも相通じているが、SOS を言えない大人が多いということ。自分一人の力でなんとかしなきゃ！と思っているひとり親家庭が多い。困り事の相談先、情報を知らない家庭が多い。
- ・貧困対策等の一部として捉えるなら、あまりにも対処的過ぎないか？ 行政はボランティアに頼り過ぎてないか？
- ・行政が困窮家庭に情報を届けてくれず（チラシの配布でさえも）、必要な人に声がかけていない。
- ・子どもたちへの情報発信の手段について。
- ・子ども食堂のタイプによって様々かと思いますが、貧困がテーマだとしたら、ほとんどのところがあまりリーチできてないんじゃないかと思います。福祉職や福祉課と密着して運営しても、なかなか新規を連れてくるのは難しいし、わからないと思うので。
- ・本当はもっと困っている方が周りにはいるはずだけど、個人情報保護法の壁が高く、痒いところに手が届かないと感じている。
- ・個人情報などの問題から、生活困窮者や個食で支援を必要とする子どもたちを把握することができない。
- ・個人情報保護の壁があり、一番必要としているところに手が届かない。
- ・個人情報の関係で、必要としている対象に食堂の存在を訴えることができない。月 1 回なので、シルバー世代はカレンダーに記入しても、子どもにはそれほどの意識や魅力にならない。親もここに行きなさいという意識になっていない。
- ・生活困窮世帯の情報、実態が分からないこと。
- ・まだまだ PR が足りないこと
- ・まだ知られていないと思う。あとは「子ども食堂をやること」が目的になっているところがあると思う。子ども食堂はあくまでも手段で、それによってコミュニティを形成したいはずなのに・・・。
- ・市民の方々、農園や企業、行政機関の支援を数多く受けることができていますが、まだまだ草の根の活動として認知されているステージに過ぎない。市民ボランティアが原点ではあるが、企業、公共団体と対等な社会活動として認知されることが重要。
- ・社会福祉協議会の建物内で開催しているので、地域の信頼を得るうえでは良い条件になっています。さらに PR して地域での存在感を高めることが課題だと思われます。
- ・孤立している親子は結構いると思う。ハード面よりソフト面が大切で心に寄り添える人材が必要。
- ・地域的に交通手段があまりないので、生活困難な方ほどわからない。

- ・まだまだ多くの子どもたちに行きあたらないこと。また、親に虐待を受けている子どもを救う手段がないかと思っている。
- ・「貧困」が地元にも存在するという地域住民の共通意識が薄いこと。
- ・貧困の子どもたち、家庭がなくなるような国家。子ども食堂がなくなるような国家にしていただきたい。
- ・地域での様々な課題を解決するコミュニティの活性化（同意見 3 つ）
- ・近年子ども食堂が増えてきたことは喜ばしいことであるが、格差の現状では、まだまだ少な過ぎる。
- ・茨城では 3 倍に増えたとの統計があるのですが、資金

- 難や理解の不足で閉店される数も多いとか。まだ不足しているので悔しい。
- ・保険とか、責任とか、資金とかかなと。
- ・一般の子どもと同様、障がいを持っているお子さんを食堂に参加させたいと考える親御さんがいるが、受け入れが難しく、断るしかない。
- ・ボランティアの人々がまだ足りないこと（高齢化になっている）
- ・あり過ぎて一言でいえないし、パスさせてください。

## ③ 子ども食堂運営の課題

課 題	回答団体数		合計ポイント（①を2ポイントと換算）
	①最も当てはまる	②該当する	
活動財源の確保が困難	4	12	20
支援が必要な子にアウトリーチできていない	2	11	15
支援が必要な子にアウトリーチできているかわからない	2	10	14
食材確保が困難	1	9	11
ボランティアの不足	1	9	11
参加者が不足している	1	7	9
参加者が増え過ぎて対応できない	2	3	7
会場確保が困難	3	2	8
運営の参考情報が少ない	0	2	2

### 自由記述欄

- ・生活困窮者、家庭などの情報が取れず、口コミなどで活動している状態がもどかしい。
- ・個人情報厳しく、必要な子どもがいるのか（いるとは聞いている）。どうすれば届くのか？
- ・どうしても会場に来る子は一握りなので、アウトリーチするとしたら全く違う方法でやらないとならない。
- ・多くの子どもに来てほしい。

- ・隣接する児童クラブは、とにかく規模が大きくあふれている。毎月子ども食堂のポスターを掲示するが、あまり効果が見られない。
- ・ボランティアのなり手がいないことが問題。
- ・会場のキャパシティで、来場者を増やすことができない。月 2 回の運営は、体力と時間の余裕がなく無理。
- ・現在の場所は公園にあるので、晴れの日は何人来ても

- 大丈夫だが、雨の日は入りきれない。
- 行政にもっと子ども食堂の具体的な支援をしてほしい。
- 行政が積極的に応援してほしい。資金面において特に。
- 現会員はリタイア組なので、次の若い世代につなげていくために、会場と財源を自前で賄いたい。
- 助成金をいただき大変助かりましたが、今後何年も継続して開催するとなると、食材費やチラシの印刷費などかなりの費用がかかる。何らかの助成金をまた申請する

- 必要があると思われます。
- 常設の居場所拠点が必要になっていくと考えている：行政の支援による。
- 月 1 回の開催では、実際の生活困窮支援や孤食対策にはならない。
- イベント的な開催ではなく、いつでも食べられる場の設定が必要。
- 費やす労力に比べ経済的見返りが少ない。

### ③子ども食堂以外に併せて行っている活動

活動の種類	回答団体数		合計ポイント（①を2ポイントと換算）
	①最も当てはまる	②該当する	
レクリエーション（昔遊びなど）	3	13	19
宿題のサポート	2	10	14
無料塾	0	10	10
家族の子育て相談対応	0	8	8
学童保育	1	4	6
子ども食堂とは別の食料支援	0	5	5
プレーパーク	0	3	3
その他	1	5	7

#### その他

- 子ども同士で遊ぶ（小中学生一緒に）
- 放課後支援
- 絵本・紙芝居の読み聞かせ
- 井戸端会議（高齢者の話を聞く）
- 子育て支援、0円マーケット
- 保健師による健康相談

#### 自由記述

- 別な日程では、食育と合わせた季節の伝統行事を実施。
- イベントで遠足などに学童クラブの子供達と合同で行き、コミュニケーション能力の向上や夢、目標設定の一助となっています。
- 主に小学生を対象とした自由なものづくりの工房。田畑などを中心とした自給自足的生活。
- 宿題などは中学生たちが小学生の面倒を見てくれる。
- 子育て中の親のサロンなどに広がってほしい。
- グレーゾーンの児童が増えており、その親子への精神的支援を考えていきたい。
- いじめの問題・不登校の児童支援など精神的サポート事業
- 9月1日の問題をなくするにはどうしたら良いか？
- 子どもたちの問題を強烈に推し進める任意団体を立ち上げてほしい。
- 開催時間が短いため、なかなか深い活動ができない。
- 子どもの貧困と言われるが、その当事者の意識等の状況が掴めず、良心の押し売りではないかと思う時もある。福祉の専門家から、レクチャーを受けたい。
- 無料塾に参加の子どものみ対象に年2～3回食事提供している。
- つくば市内の無料塾の食事支援活動を準備中。



## ③4 項目間のクロス集計

### 組織区分別にみた個人会員数

個人会員数 組織区分	9名以下	10～29名	30～49名	50名以上	回答なし	合計
NPO 法人	1	6	1	4	1	13
生活協同組合	0	0	1	4	0	5
その他	3	5	4	1	2	15
計	4	11	6	9	3	33

個人会員が 50 名を超えるような大きな団体は NPO 法人や生協に多いが、それより小さい規模ではあまり差異はみられない。

### 各回の平均ボランティア数と、各回の平均参加人数（子ども）

参加人数 ボランティア数	9名以下	10～19名	20～29名	30～49名	50名以上	合計
4名以下	6	3	1	0	0	10
5～9名	1	8	3	1	2	15
10～19名	0	4	7	1	0	12
計	7	15	11	2	2	37

平均参加人数（子ども）の半数程度のボランティアで対応している子ども食堂が多い。

### 組織区分別にみた各回の平均ボランティア数

ボランティア数 組織区分	4名以下	5～9名	10～19名	回答なし	合計
NPO 法人	2	7	4	0	13
生活協同組合	0	2	3	0	5
社会福祉法人	1	1	0	1	3
その他	1	0	0	0	1
任意団体	6	5	3	1	15
計	10	15	10	2	37

NPO 法人や生活協同組合の平均ボランティア数は比較的多い一方、任意団体では少人数による開催が多い。

開催頻度と各回の平均ボランティア数

開催頻度 \ ボランティア数	4名以下	5～9名	10～19名	回答なし	合計
ほぼ毎日	2	1	0	0	3
週に1回	1	2	0	0	3
月に2～3回程度	4	4	1	0	9
月に1回以下	3	8	11	2	23
計	10	15	10	2	39

月に1回以下の開催では、10名以上のボランティア数が集まる食堂が多い一方、それよりも頻度が高い食堂は、より少人数で開催している。開催頻度が高くなると、多くの人数は集まりにくいと言える。

各回のボランティア数と、その内の会員ではない外部ボランティア数（各回平均）

ボランティア数 \ 外部ボランティア数	4名以下	5～9名	10～19名	20名以上	回答なし	合計
4名以下	10	0	0	0	0	10
5～9名	9	2	0	1	3	15
10～19名	3	5	1	0	3	12
計	22	7	1	1	6	37

各回のボランティア数のうち、外部ボランティアが占める割合は、半数以下の食堂が多い。

ボランティア連携先数と、会員ではない外部ボランティア数（各回平均）

連携先数 \ 外部ボランティア数	4名以下	5～9名	10～19名	20名以上	回答なし	合計
6	1	0	0	0	0	1
5	0	2	0	1	0	3
4	1	0	1	0	0	2
3	0	0	0	0	0	0
2	4	2	0	0	0	6
1	5	1	0	0	0	6
0	11	2	0	0	8	21
計	22	7	1	1	8	39

※「ボランティア連携先数」は、社会福祉協議会、NPO、企業、生協、農協、メディア、大学、大学以外の学校、自治会・町内会、PTA、その他のうち、食堂がボランティアについて連携している先の数。

10名以上の外部ボランティアが参加している子ども食堂は、連携先数が多い。ただし、連携先数が多くても、外部ボランティア数が少ない食堂もある。ボランティア連携をしていない団体も多く、外部ボランティア数は少ない。

### 各回の平均ボランティア数と、ボランティア数の充足度

充足度 ボランティア数	足りている	おおよそ 足りている	不足 している	非常に不足 している	合計
4名以下	4	1	4	0	9
5～9名	1	10	4	0	15
10～19名	3	7	1	1	12
計	8	18	9	1	36

10名以上のボランティアがいる子ども食堂では、ボランティア数の充足度は満たされている。9名以下になると不足している子ども食堂が多くなり、4名以下では半分近くで不足している。

### 組織区別にみた主要な活動財源

財源 組織区分	参加費	助成金	行政 補助金	寄付金	会費	合計
NPO 法人	3.1	2.3	1.8	3.6	2.3	13
生活協同組合	4.3	0.3	0	0.3	0	5
社会福祉法人	1.5	0.5	1	0	0	3
任意団体	4.5	6.2	2.5	0.5	1.2	15
回答なし	1	0	1	0	0	2
計	14.5	9.3	6.3	4.5	3.5	38

※ 複数回答は回答数で割って積算した（例：2つの複数回答の場合、それぞれ0.5として計算）ため、小数点の値がある。

NPO法人は寄付金と参加費、任意団体は助成金と参加費、生活協同組合と社会福祉法人は参加費を主な財源としている。

### 開催頻度別にみた、子ども食堂の活動のみで計算した場合の年間の経費

年間経費 開催頻度	5万円 未満	5～10 万円	10～30 万円	30～50 万円	50～100 万円	100万円 以上	回答なし	合計
ほぼ毎日	2	0	1	0	0	0	0	3
週に1回	0	0	0	0	1	1	0	2
月に2～3回	0	3	4	2	0	0	0	9
月に1回以下	2	8	13	1	0	0	0	23
計	4	11	18	3	1	1	0	38

週に1回の子ども食堂における年間経費は高い一方、ほぼ毎日開催されている子ども食堂では経費はより低く、開催頻度の高さと年間の経費は必ずしも比例するとは言えない。

主な活動財源と、子ども食堂の活動のみで計算した場合の年間の経費

年間経費 活動財源	5万円 未満	5~10 万円	10~30 万円	30~50 万円	50~100 万円	100万円 以上	回答なし	合計
参加費	2	4.5	7.2	0.6	0.2	0	0	14.5
助成金	0	3.5	5	0.6	0.2	0	0	9.3
行政補助金	1	2	0.8	1.3	0.2	0	1	6.3
寄付金	0	0	3.7	0.6	0.2	0	0	4.5
会費	0	1	1.3	0	0.2	1	0	3.5
計	3	11	18	3	1	1	1	38

※ 「主な活動財源」は、「最も当てはまる」と回答された財源。最も多額な財源が回答されておらず、財源が複数回答されている場合、回答数で割って積算した（例：2つの複数回答の場合、それぞれ0.5として計算）ため、小数点の値がある。

高い経費の子ども食堂は参加費以外に、助成金や行政補助金など複数の資金を獲得している。

食材の調達先と子ども食堂の利用料（子ども）

利用料 食材の調達先	無料	1~ 99円	100~ 199円	200~ 299円	300~ 499円	回答 なし	計
地域住民の寄付	4.4	0.5	3.7	1	0	0	9.5
近隣農家の寄付	1.9	1.5	5.3	0	0	0	8.7
店舗で購入	1.8	2.3	3	0	1	0	8.1
農協からの寄付	0.2	0.3	3.5	0	0	0	4
近隣農家からの購入	0	0.3	2	1	0	0	3.3
生協からの寄付	0.2	0	0.3	0	0	0	0.5
その他	2.5	0.3	1.2	0	0	1	5
計	11	5	19	2	1	1	39

利用料が無料の子ども食堂の多くは、地域住民や近隣農家から食材が寄付されている。店舗や近隣農家から食材を購入している食堂では、料金は比較的高い傾向にある。

## 1 食あたり食材費と、子ども食堂の利用料（子ども）

食材費	利用料					合計
	無料	1～ 99 円	100～ 199 円	200～ 299 円	300～ 499 円	
100 円未満	1	1	2	0	0	4
100～199 円	3	2	7	1	1	14
200～299 円	4	1	5	1	0	11
300 円以上	1	0	1	0	0	2
計	9	4	15	2	1	31

※ 「1 食あたり食材費」は、「食材寄付を除いた 1 食あたりの食材費」

およそ 6 割の子ども食堂で、食材費よりも安い利用料で食事を提供している。

## 食材の調達先と、食材寄付を除いた 1 食あたりの食材費

食材の調達先	食材費				回答 なし	計
	100 円 未満	100～ 199 円	200～ 299 円	300 円 以上		
地域住民の寄付	1.5	3.1	3	0.3	1.6	9.5
近隣農家の寄付	2.5	4.1	1.5	0.3	0.3	8.7
店舗で購入	0	2	2.5	0.3	3.3	8.1
農協からの寄付	0	1.5	2	0	0.5	4.0
近隣農家からの購入	0	2	0	1	0.3	3.3
生協からの寄付	0	0.2	0	0	0.3	0.5
その他	0	1.1	2	0	1.8	5.0
計	4	14	11	2	8	39

食材費が安価な子ども食堂は、地域住民や近隣農家からの寄付で調達されている。

## 組織区別にみた運営面の課題

運営面の課題	組織区分	NPO	生活協	社会福	任意	回答	合計
	法人	同組合	社法人	団体	なし		
活動財源の確保が困難	2.3	0	1	4.1	0	7.3	
支援が必要な子にアウトリーチできていない	0.8	0	0.5	2.5	1	4.8	
支援が必要な子にアウトリーチできているかわからない	1.6	0	0	2.5	0	4.1	
会場確保が困難	1.3	0	0	2.2	0	3.5	
参加者が不足している	1	1	0	1	0	3	
食材確保が困難	1.2	0	0	1.6	0	2.8	
参加者が増え過ぎて対応できない	2	0	0.5	0.2	0	2.7	
ボランティアの不足	1.8	0	0	0.8	0	2.6	
運営の参考情報が少ない	0	0	0	0.2	0	0.2	
衛生管理に不安を感じる	0	0	0	0	0	0	
回答なし	1	4	0	0	1	6	
計	13	5	2	15	2	37	

任意団体は財源確保やアウトリーチの未到達、会場確保について、NPO 法人では財源確保や参加者の増え過ぎが課題となっている。



## 令和元年度茨城県内子ども食堂実態調査報告書

令和2年3月

子ども食堂サポートセンターいばらき

(運営：認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ)

電話：029-300-4321

FAX：029-300-4320

eメール：[kodomo@npocommons.org](mailto:kodomo@npocommons.org)

ウェブサイト：[www.kodomo-ibaraki.net](http://www.kodomo-ibaraki.net)